

# WG3:「エンジニアによるエンジニアリング教育について」

本多 慶匡  
東京エレクトロンソフトウェア・テクノロジーズ(株)  
[Yoshitada.honda@tel.com](mailto:Yoshitada.honda@tel.com)

## 要旨

これまで、プロセス品質を重視して開発を進めてきた。その結果、Qualityはあがったが、Deliveryが悪くなったと言われるようになった。プロセスだけでは、市場が求めるスピードに追いつけない。プロセスでQCDをコントロールしようとしていた考えが、開発者の技量でQCDをコントロールできるように考えに移行するようになってきた。

開発者の技量を上げるための『教育』に興味をわいてきた。

市場が求めるQCDに近づくための教育内容と教育方法をWSで話し合いたいと思っています。

## 1. 自己紹介

### 会社:

東京エレクトロンソフトウェアテクノロジーズ(株)。自社製品の組み込みソフトの開発を主に手掛けている。

### 会社での役割:

- ・4つの開発チームの管理と支援を行ってラインマネージャーです。
- ・グループ会社を横断したQCD向上活動。
- ・「派生モデル開発」、「PSP」の教育支援と展開を行っています。

### 社外:

SS2009 in Sapporo の実行委員会  
JaSST Hokkaido の実行委員会

### 趣味:

- ・マラソン、水泳(クロール)、香道。

### これまでのSS:

- ・SQAのWSに参加していました。

## 2. 教育に関して実施している内容や取組み

『派生モデル開発』と『PSP』の教育支援を行っています。派生モデル開発は社内への展開も終わり、今は維持を支援する状況。

『PSP』は教育をはじめて6ヵ月。PSP課題を使わないで、実業を通してPSPを学べるようにすすめています。

## 3. 討論したい内容

わたしの会社の中で上手な仕事をしている社員の観察をした。彼は書籍『PSP 入門』に書かれている要素のほとんど実施していた。本人に確認したがこれまでにPSPに関する本すら読んだことはない様子。考えた末にたどり着いたスマートな仕事がPSPに近いものだったようです。彼と一緒に仕事をして次のことを考えるようになりました。

開発の中心で活躍するものとおなじ道をたどらせることで同じ技量をもつ開発者を育成することが出来るのではないだろうか？ 同じ本を読み、同じエリアの仕事を科せる。書き出して見るとOJTのようですね。OJTを体系化することで組織に適した人材を育成できるということだろうか？

組織に適した人材育成、教育方法についても、みなさんと討論したいと思っています。

## 4. WSに期待すること

わたしの教育経験から教育した内容を根付かせるのに必要だと思っていることは2点。

- ・開発チームに対して教育を行う。
- ・受講後の支援(Guide)を続ける。

どちらも組織(企業)にとってはお金のかかる話です。昨今のような不景気では、おいそれとは実施できません。とはいえ、『教育』を成功させて、組織を成長させたいという強い思いがあります。組織教育を成功させ、組織成長が市場価値に追いつくための教育方法についてのヒントをこのワークショップから導き出せることを期待しています。